

赤バスさん ありがとう

4月1日から 青いバス(港区役所運行)

委託・日交さん 「代替にふさわしく」

緊急投稿

赤バスの存続を求める港区連絡会 事務局 大槻一成

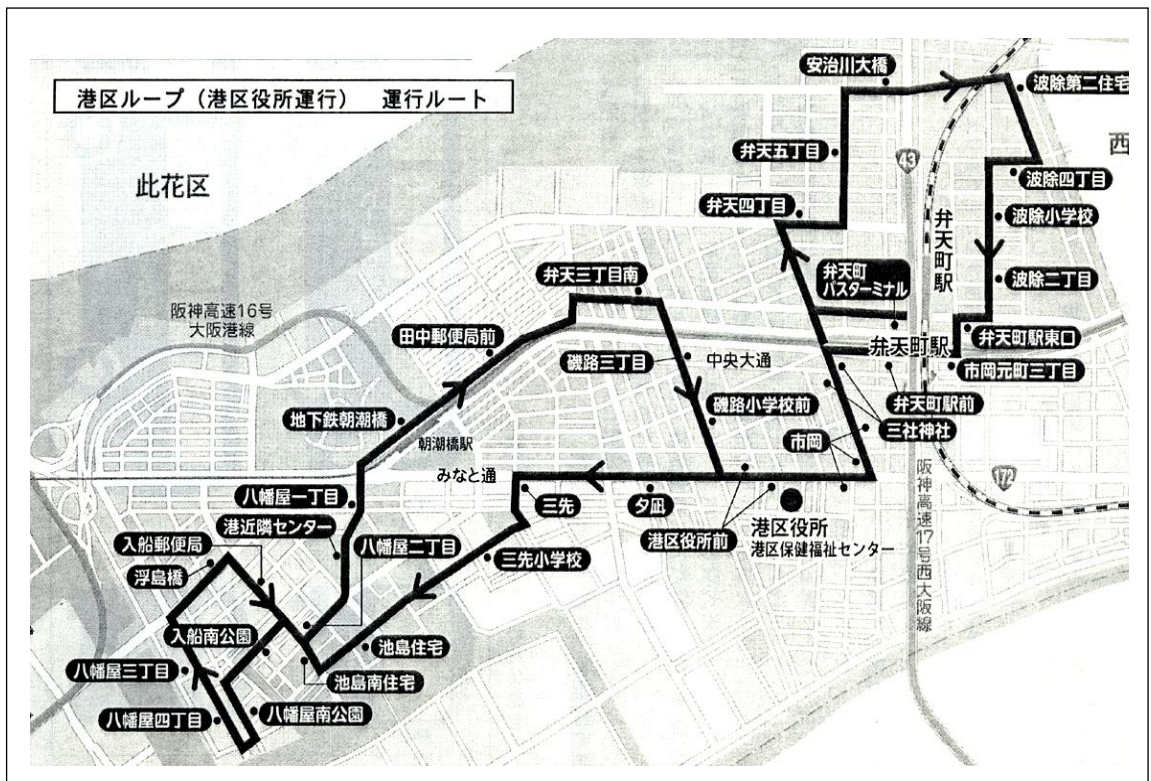
市長から「赤バスは今年度末廃止」の張り紙をすべての赤バス停に突きつけられて半年。いよいよ今月末で赤バスの姿が消える。通院に、買い物に、生きるための用事に、中には「命綱の足」と頼る人々はどうなる？ どうされるのでしょうか？

青い代替手段

市長から「存廃の判断は区長に委ねる」と責任を振られ、「廃止後の空白をつくらない代替手段の検討」を約束してきた港区長は、公募によって、「日交株式会社」に運行業務を委託、平成

青い車体・定員 27 人(正座席 21、補助 6)

25年4月1日から26年3月31日まで1年間、(港警察から市岡3丁目〜南市岡のコースを除く以外は)ほぼ現行通りの運行ルート(下図)で、運賃は現行と同様の大人100円子ども半額、敬老パス・身体障害者手帳は乗務員に呈示によって市営バスと同じ取扱いに、(市バス・地下鉄との乗継割引はなし)、毎日8時から19時の間に9便、「港区役所運行」と明記の青い車両(低床でなく車いすは乗れない)で走らせると発表しました。



利用者の多くが「命綱を絶たれる」思いにさせられた中で「ほぼ現行通りのルートで赤バスの代替手段がなくなる」この発表にこぎつけられたのは本当にうれしいことです。

「真に必要な移動手段」

昨年10月初め「市の赤バス廃止宣告」に抗議の港区役所前座り込み(1〜12日の間高年齢者が次々座り、3人で255才の時もあった)のさ中に届いた港区長の回答は「地域にとつて真に必要な移動手段の確保」と結ばれていました。連絡会は、区との協議で利用者の実情と真実の声を届けることに徹し、赤バスを命綱と頼るお年寄り自らが多数発言し、思いをハガキで百通以上届け、陳情や嘆願を重ねました。それらが人の心を動かし、区長表明の「必要なエリア、ルート」なども修正し、ようやくこの発表までこぎつけられたのではなかったでしょうか。

港区が「委託」という公共の責任をすりかえる途をとったことは大問題です。市長が責任を放棄し、区に運行を担う機能もない中で窮余の工夫だったのかもしれませんが。市交通は公共の福祉の土台、最たるものです。ですから連絡会は2月1日の協議で「委託だが【港区役所運営】というのは、公営ですか？民営で

すか？」と質問しました。区は「公営です。委託は運行業務だけ、運営責任は市と港区役所が持ちます」と答えました。

「公募」と聞いてすぐ連絡会は、これまで交通局や区に届けてきた、数百通の区民直筆の「なくさないでアンケート」や「要望ハガキ」を応募者に渡るように区に託しました。

「とても思いやりのバスです。ないと困ります。いつまでも続いてほしいです」などと



赤バスをよく知らない人も、今は用のない人もぜひ何度か乗って見ましょう。いまのうちに！

書かれた、赤バスのコンセプトや福祉バスとしての実情をしっかりと受け継ぐ代替手段であつてほしいと願うからです。

赤バスの代替にふさわしい

魅力のコミュニティバスに

赤バスが「乗ってみたいとわからない」と言われたように、代替手段の青いバスも実際の運行が始まって初めてわかることも少なくないでしょう。必ず、改善や利用促進の要望が湧いてくるに違いありません。その時、しっかりと受け止めて、いのちづなの、大事な福祉の役割がより安心・安全・便利に果たすコミュニティバスに成長できるように、公共の責任を果たしてほしい。私たちもそのために大いに力を尽くそうと思います。

地下鉄・市バスの民営化反対

便利でやさしい 赤バスを復活を

この3月、市長は市交通の公共責任すべてを放棄する「地下鉄・市バスの民営化」の強行を狙っています。市民の莫大な財産を売却、交通権を奪うものです。民営化反対・拙速に強行するなを声を市に議会に届けましょう。赤バスさん 足の弱い人遠い人赤ちゃん連れの母さんらを支えて ありがとう。